

2021.4.12 白馬村図書館等複合施設に関する住民説明会 質疑応答

- Q. 多額の費用が必要となる事業であるが、借金が71億円もある白馬村の財政状況を考えて実際に建設することは可能なのか。
- A. 借金が多いほど建設は難しいが、複合施設においては当初の計画で大丈夫という話で基本構想・基本計画を策定してきた。最優先候補地を白馬駅としたのは、官民連携により村の財政的負担を抑えられる可能性に期待した部分大きい。基本計画の見直しにあたっては、財政計画も考慮した上でいつ頃建設できるのかというスケジュールも含めて検討したい。
- Q. 財源として、建設費の2分の1程度は交付金を充てるという話があったが、図書館に限らず公共施設を建設する場合に必ず交付されるものなのか。
- A. 他の地域で複合施設を建設する際に、国土交通省の社会資本整備総合交付金を活用している事例が多い。確実に半分というものではないが、多くの事業で2分の1程度の交付を受けている。現時点でその交付金を活用が決まっているわけではなく、選択肢の一つとして考えている。
- Q. 候補地の比較にあたり、具体的な費用や利用人数等の想定はあるのか。
- A. 土地に関する費用は内部で概算したものがあるが、公表はしていない。建物については、複合化する機能や規模等により流動的であるため、利用者数の想定等も含めて基本計画の見直しの中で検討していきたい。
- Q. C候補地にした場合、道路が狭く混雑するなど危険が増すのではないか。
- A. C候補地に建設することになった場合は、前面道路である塩の道について歩道の設置も含めて拡幅が必要と考えている。
- Q. 候補地について、A～Dの4地点以外の可能性もあるのか。
- A. 基本的にはA～Cの3地点を優先的に検討するが、状況によってはそれ以外の場所を候補地として検討する可能性もありうる。
- Q. 基本構想の策定までは村民の意見を聴いていただき、理想的な方向に進んでいると思っていたが、基本計画の段階でよくわからない評価により駅になったように感じている。むらとしよの会で多くの方の署名を集め、白馬駅での検討を停止することと早急に住民説明会を開催することを求める陳情が議会で採択されたが、官民連携のサウンディングが終わるまでは待つてほしいと言われ、聞いてもらえなかった。民間事業者の意向が駅であれば、そのまま進んでしまうのではないかと感じた。まず村民の意見を丁寧に聴いてから進んでほしかったが、その辺りの反省や検証はあるのか。

- A. D 候補地は「最優先候補地」であり、建設地として決定したわけではないという認識の上で、官民連携の可能性を踏まえた上で、皆様からのご意見をいただくつもりでした。結果的に白馬駅での建設は厳しいということになったが、他の地点の場合どうかということは、今後の検討において示していきたい。
- Q. C 候補地を優先的に検討するということであるが、別の場所が良いという意見もある。見直すことになったため、多様な住民の意見を聴きながら進めてほしい。
- A. 今後、教育委員会において「見直し検討委員会」(仮)といったものを立ち上げて調査・検討を進め、ある程度進めていく中で住民説明会等も開催しながら、多くの方々のご意見を計画に反映させていきたい。
- Q. 住民説明会について、平日の夜だけでなく、子育て中の人も参加しやすい日時にも開催して、多くの住民の意見を聴いてほしい。
- A. 今後、説明会に限らず、いろいろな場や媒体で情報は随時お知らせして、意見も募っていききたい。本日の説明会もケーブルテレビで多くの方のご覧いただきたいと考えている。
- Q. 「図書館等複合施設」という名称になっているが、内容は図書館と子育て支援施設で決定しているのか。有識者会議では、いろいろなアイデアが出ていたが、その辺りのアイデアは採用されなかったのか。
- A. 有識者会議も含めて、基本構想・基本計画を策定していく中で、村の方針として図書館と子育て支援施設は複合化するという事になっている。基本計画を見直すことになるが、基本的には図書館と子育て支援施設を複合化していくという方針は現時点では変更しないつもりである。有識者会議で出された意見のうち、マンガ館やホールについては、基本計画に記載されている。計画を見直す中で、これまでに有識者や住民から出された意見を踏まえて、実際どうするのかということは改めて検討したいと考えている。
- Q. 村民が思い描いている図書館像と行政の考えているそれとが全く異なっている。自分の周囲の意見を聞いても、村の方針には首を傾げる人が多い。複合施設は子育て支援施設を含めるということであったが、各種会議に子育て支援課の職員が委員として参加していない。当初教育委員会で担当し、その後総務課に担当が移り、再び教育委員会に戻ってきた。子育て支援施設が大きなウエイトを占めた複合施設でありながら、総務課が子育て支援関係者を含めた会議を開催していない。候補地の評価においても子育て支援の観点が入っていないにもかかわらず、官民連携が二重で評価され、官民連携を前提として結論が出されていたと理解している。行政の姿勢として、結論ありきではなく、真剣に検討してほしい。図書館は他の公共施設と違い、子どもからお年寄りまで幅広い世代が利用する施設である。個人的には C 候補地が良いと思うが、ハ

ードもソフトも様々な意見がある。白馬村らしい図書館を実現するため、財源も考慮しながら、庁内だけでなく幅広い住民の声を聴いてほしい。九州に住民団体が運営する図書館があるが、住民が何十人も集まって「図書館はこうありたい」という議論を繰り返し重ねたと聞いている。住民説明会だけでなく、検討・議論の場を多く設けてほしい。

- A. 子育て支援課の意見が反映されていないという指摘があったが、有識者会議は総務課が事務局で、生涯学習スポーツ課と子育て支援課も同席していたほか、庁内の検討においても当然参加していた。今後の進め方については、貴重なご意見として参考とさせていただきます。

- Q. 住民説明会の開催日時について、子育て支援施設を複合化するという話にも関わらず男性目線だと感じる。村民のための施設を建設する以上、村民の意見を聴く場を何度も設けてほしいし、どんな人に参加してもらいたいのか熟慮した上で日時を設定してほしい。

- A. 今後の意見交換会の回数や日時の設定など、可能な限りそのように対応したい。

- Q. 現在の子育て支援ルームの敷地だけでは、子育て支援施設だけで一杯になってしまうと思う。老若男女の溜まり場となるような施設となるために、様々な機能を入れていくことが望ましく、もう少し広い場所に建設してほしい。他の場所に建設するのであれば、財源確保のためにも子育て支援ルームを売却するということも考えてほしい。

- A. 子育て支援機能を複合化することになった理由の一つに、施設の老朽化がある。中部保育園から通算すると建設から40年以上が経過している。白馬村は観光業従事者など共働きが多く、未満児保育は希望が多く受入れに苦慮している。子育て支援ルームでは休日保育や一時保育を行っているが、今後強化していく必要がある重要な事業と考えていることから、図書館の建替えと併せて複合化することが望ましいという考えに至った。施設の売却という考えもあるが、現在の場所を利用して建て替えるという選択肢もあるため、見直しの中で意見を聴きながら検討したい。

- Q. 子育て中の立場から発言させていただきたいが、そもそも図書館を新たに建設する必要があるのか。また、複合施設のターゲットはどの層に設定しているのか。

- A. 必要か否かということについては、いろいろな考え方があがるが、現在の図書館に対して「このままでいいのか」という声は長年寄せられ続け、村の課題の一つと認識している。図書館を利用しない住民も多く「他に優先すべきことがある」というご意見もあるが、重要な行政サービスの一つと捉えている。現在の施設で十分なサービスを提供できていないために足を運んでもらえないという部分もあると思われるため、学びの機会の提供や多様な住民の交流も含めて、村民が行きたくするような施設とするためにも新たに建設する必要があるということで検討が始まった。図書館の担う役割として、特定の年齢層ではなく子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とすべき施設と

考えているが、子育て支援施設を含めた複合施設とする方針を定めた背景には、施設の老朽化だけではなく、子育て世代の居心地の良い場所がないという課題があり、それを解決することも今回の複合施設の狙いの一つであるため、子育て世代が重要なターゲット層であると考えている。

- Q. 説明会を増やしてほしいという意見が出ているが、対面にこだわる必要はなく、忙しい子育て世代も「聴くだけなら参加できる」という状況もあると思うため、オンラインでの開催なども検討してほしい。
- A. 貴重な意見として参考にさせていただく。対面、ケーブルテレビ、広報紙、インターネットなど様々な方法や媒体を活用することで多くの方に情報を伝えたりご意見をお聴きしたりしていきたい。
- Q. 住民の意見を聴くと、行政の進め方に対して異論を持っているように感じる。なぜこういう場をこれまでに開催してこなかったのか。結論を出すのではなく、意見を自由に出せる機会を何度か開催すれば、原点に立ち返るような意見は出てこないはずである。
- A. 今後の参考とさせていただく。
- Q. 教育委員会で検討した際には、子育て支援ルームの場所を推奨したにもかかわらず、なぜ白馬駅に替わってしまったのか。子育て支援に相応しい環境とは思えない。教育委員会として、住民の意見を聴いて検討を進めてほしい。駅前の無電柱化に併せて駅の東側の開発も検討すべきではないかという意見があると聞いて驚いたが、そういった話には惑わされず、村民のための施設として検討してほしい。また、山とスキーの総合資料館は民営であるが素晴らしい施設である。新しい図書館では、山に行けない人も山を学んだり楽しんだりできるような白馬らしい施設が必要だと思う。財源について、山とスキーなど白馬らしいテーマを伝えて全国からふるさと納税などで応援してもらうのも良いことだと思う。
- A. 今後の参考とさせていただく。
- Q. 20 年ほど前に移住して、とても素晴らしい村なのに、図書館だけが残念だという思いがあった。限られた施設ながらもできることをやろうとされている職員の方もいると思うが、施設上の限界がある。旅先などでそれぞれの地域の図書館に足を運ぶが、図書館が素晴らしいだけで地域の未来を感じることができる。知識が蓄積されている場所は地域にとって非常に重要である。行政の中に図書館に対して情熱的な職員がいるのか疑問に思う。図書館をつくりたいと思っている職員がいたら、「白馬駅には魅力的な図書館はできない」と反対したのではないか。そういった職員が居ないのであれば、担当を一人決めてもらって全国の図書館を見てもらいたい。他の地域の事例を見れば、自ずとやる気が湧いてくると思う。候補地の比較を点数化して最終的に

駅になったとしても、「それはやめましょう」と言えるだけの権限を与えてほしい。そうすればその人を住民で応援しながら地域で検討を進められるのではないか。候補地を白馬駅にした時点で、子育てに情熱的な人がいるとも思えない。図書館や子育てに当事者意識のある職員が役場の中で意見を言えるような体制にしてもらえないか。

A. 情熱的な職員がいるかどうかはわからないが、今後見直し検討委員会（仮）を立ち上げ、建設や運営など最後まで面倒を見ていただくような形で、専門性のある委員に参加していただきたいと考えている。推薦したい人がいればご紹介いただきたい。

Q. 新しい図書館をつくること自体は賛成だが、今この状況で建設することには反対。複合施設となれば負担も大きくなり、基金もない今の財政状況を考えると破綻の恐れがある。小学校の統合についても予定地が定まっておらず、現時点多額の費用を投じて図書館を建設すべきではない。基金を積み立ててからの建設でも良いのではないか。子育て支援施設は早急に対応する必要があるため、保育園に隣接する形で建設することが望ましいと考える。給食センターを検討した際に、一カ所に統合するのが最も財政負担が少ないということであったが、当初の予定よりもかなり費用が高くなった上に、国からの補助金はごく一部しか出なかった。「補助金がもらえるだろう」という考えは危険であり、図書館の建設は一時凍結してほしい。図書館建設は村長公約でもあるため、村長自ら説明するのが責務であると思うが、説明会に出席しないのは無責任である。

A. 建設費について、基本計画では10億円と想定しているが、複合化する機能によってはそれ以上になると考えている。何をどこまで必要とするか、建設費やスケジュール等も含めて基本計画の見直しの中で検討していきたい。

Q. 財源が厳しいため凍結してほしいという意見もあるが、今止めてしまったら当面建設できないと思う。すぐに実現するものではなく、ここまで検討してきた経過もあるため、財源を確保しながら計画は進めていただきたい。スケジュールについて、具体的な案はあるのか。見直し検討委員会（仮）を設置するとのことであるが、行政で案を作ってやりとりをするとなかなか進まないと思うので、住民を交えた建設委員会という形になるべく早く進んでいただきたい。

A. スケジュールについては、財政状況も踏まえた上で、基本計画の見直しの中で示していきたい。

Q. 最優先候補地を白馬駅に決定した詳細な経緯が明らかにされないが、同じ轍を踏まないためにも丁寧な説明をお願いしたい。

A. 最優先候補地を白馬駅にした理由については、基本計画における評価のとおり官民連携によるコスト削減を期待したという部分と、賑わい・交流も含めた観光の視点を高く評価したということと考えている。

Q. 住民説明会を開催していただいたことに感謝する。今後の検討においては、とにかく情報を公開してほしい。決定した内容を伝えるだけでなく、そこに至るプロセスを公開していくことが重要。見直し検討委員会を設置するのであれば、委員をどうするのか、どうやって意見を拾い上げていくのか、その結果どうするのか、という形で細かく共有してほしい。図書館を新しくつくるという話になったとき、とても期待してワークショップ等にも参加していたが、しばらく経って「白馬駅が候補地になった」と聞いた時にはまさに「寝耳に水」であった。候補地を見直すということで、個人的には安心したが、「役場で決める」という表現には違和感を覚える。9,000 人をまとめるためには役場でリーダーシップを取ることが必要であるが、決めるのは誰なのかということを考えてほしい。いろいろな意見があり時間はかかると思うが、白馬らしい良い図書館を構成に残していくためにも、村民の意見を丁寧に拾い上げてほしい。

A. 今後、情報の共有と意見の聴取は丁寧にやっていきたい。

Q. 有識者会議でも東京などから知見のある方を呼んでいたが、白馬の地域性を知っている人は考え方が違うこともあると思う。今後、専門的な人材を呼ぶのであれば、白馬在住の人や縁がある人をリーダーにしていきたい。

A. 有識者会議では村外の委員が多かったが、今後は建設だけでなく運営まで検討していただきたいという思いもあるため、可能であれば村内で関心のある方に委員になっていただきたいと考えている。

Q. 官民連携について広報はくばに記事が掲載されるということであるが、良い点だけでなく課題や問題点も含めて知らせてほしい。他の地域での事例なども併せて紹介してもらえるとわかりやすいと思う。

A. 広報はくばに掲載する官民連携の記事については、決まった後に内容を伝えるのではなく、事前に多くの方に知っていただきたいという想いで掲載している。わかりにくい内容であるため、紙面で伝えられるのはごくわずかであるが、メリット・デメリットを含めて記載している。具体例、特に上手くいっていない、課題を抱えている事例は紙面等では紹介しづらいが、個別にご連絡いただければ知っている範囲で情報をお伝えすることは可能である。

Q. 村民の意見を聴く手段・方法はいろいろあると思うが、ぜひ子どもたちの意見も聴いてほしい。過去に高校生から提案を受けたこともあったが、小学生なりや中学生なりの理想の図書館を思い描けると思う。

A. 今後の参考とさせていただく。

Q. 図書館に情熱を持っている職員がいないという話もあったが、現在図書館で働いている職員は正職員ではないと思う。長く携わっても正職員になれないことに違和感があり、図書館協議会でも県立長野図書館の方から「責任を持って現場を担う職員の待遇

も考えていくべき」という意見があった。そういった面も検討してほしい。

- A. 司書については、昨年度から会計年度任用職員として、正職員ではなく毎年更新することにはなるが、職員と同様に手当等も支給される。正職員を採用するためには試験が必要で、年齢の関係等も出てくる。全体のバランスも考えながら、現状は会計年度任用職員としている。

- Q. 館長・責任者となる人は正職員として採用するべきではないか。職務に対する情熱や責任感なども変わってくると思われる。

- A. 現在は生涯学習スポーツ課長が図書館長を兼務しているが、新しい図書館の建設にあたっては専任の館長が必要だと考えている。見直し検討委員会（仮）には、館長となる方も委員として参加していただきたいという想いはある。

- Q. 見直し検討委員会（仮）について、半分以上は施設の利用者である住民を委員としてほしい。県や村の職員、充て職などが多く、公募委員は数名しかいないことが多い。公募しても応募が少ないという話を聞いたこともあるが、図書館等複合施設については、熱意を持っている方がたくさんいると思う。これまでに開催してきたワークショップなどの意見が活かされていない。

- A. 教育委員会で設置した図書館施設検討委員会は、住民を代表する形で、学識経験者、幼児・児童・生徒の保護者の代表者、学校教育関係者、社会教育委員代表者、図書館協議会代表者、公募委員など 15 名程度に参加していただいていた。複合施設として子育て支援施設もあるため、その関係者も加えて 20 名くらいのものを想定しているが、本日いただいたご意見も参考にしながら検討して委員会を設置したい。

- Q. 財政状況を考えて凍結すべきという意見があったが、2 年間で 1,200 万円かけて検討してきた結果はどうするのか。候補地を見直すだけであって、図書館建設自体を見直すわけではないということははっきり示してほしい。移住してきたときに、図書館を訪れて残念に感じた。山やスキーに関係する雑誌だけでなく他の雑誌も一切ない。そんな図書館は他にないのではないか。白馬村に相応しい図書館はどういったものなのか、みんなで議論すべき。伊万里市では、多くの住民が意見を出し合ってつくった図書館があり、あえて「市民図書館」と名付けている。毎年のように運営について議論されている。図書館は自治体の文化水準を示す施設であり、みんなが集える・憩える、交流できる図書館、多世代が本に親しむ施設となしてほしい。

- A. 今後の参考とさせていただく。

- Q. これまでの計画の作られ方がどうであったのか知る必要がある。基本構想と基本計画が冊子となっている。村が業者に委託して作った形になっているが、実際には事務局が作っている。委託業者には 1,000 万円以上支払っているが、自分で調べてようやく知ることができた。冊子の中身を読んで 1,000 万円もかかるわけがないと思っている。行

政と話して、今後そういったことがないようにしてもらわないと、どんなに良い意見を述べても意味がない。住民の責任として、行政について事実を知る・調べることも大切である。公共事業であるため「なんとかなる」と無責任なことを言うべきではない。交付金が2分の1であれば根拠をはっきり示すべきである。財政的な部分を含めて本当に建設できるのかどうか、責任を持って示すのも事務局の役割である。基本構想や基本計画では「事務局」という言葉は1回しか使われておらず、実際には無かったのではないかと感じるが、今回は事務局として表に出てきたため明らかになった。意見や要請は住民から事務局に積極的に伝えなければならない。

- Q. 説明会の日時について、平日の夜だと参加できる人が限られてしまうため、日時を変えて複数回開催してほしい。また、説明会に出席する職員についても女性を入れたり、外国人住民も多いため英語を話せる職員も同席したりするなど、ダイバーシティ・インクルーシブといった視点を行政でも検討してほしい。
- A. 役場職員全体の男性比率が高いということもあり、すぐに対応することは難しいが、視点としては持ち合わせていきたい。英語による情報発信については、行政全体として可能な範囲で対応するようにしているが、複合施設の案件についてもできるだけ英語で伝えていくよう努めたい。
- Q. 壇上で話す職員は「長」の付く役職である必要はない。第一線で動いている職員の生の声を聴けるようにしてほしい。
- A. 係長として第一線で動いている。力不足で申し訳ないと感じているが、いただいたご意見を活かして頑張りたい。